

一、次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。

国語の長文問題は、
著作権の関係により公開できません。

問三、傍線部（B）「魂とは全く結構な身分だ」とあるが、その意味としてもっとも適当なものを、次の1～4から選びなさい。 【解答番号2】

- 1、魂は現実にある肉体の苦痛から常に逃れて存在している
- 2、魂は口さきばかりで自分にとって貴重なものではない
- 3、魂をガンにして苦しめようとしても魂は何も語らない
- 4、食道ガンとの闘病も魂によつてしか語られない

問四、傍線部（C）「あたしはあたしの顔死を迎えたい」とあるが、その意味としてもっとも適当なものを、次の1～4から選びなさい。 【解答番号3】

- 1、踏みつぶすのも気持ちが悪いと侮蔑されるなら、海へ投げ返されて静かに死を迎えたいということ。
- 2、海の星と謳われた過去の栄光を思い出し、誇り高く自分の死を迎えたいということ。
- 3、慈愛にしがみつくことに見切りをつけ、ゆつたり落ち着いて死を迎えたいということ。
- 4、見苦しくのたうち廻りながらも、最後まで恐れることなく死を迎えたいということ。

問五、傍線部（D）「メタファーを駆使して内面を作品世界のなかに「対象化」している」とあるが、その具体的な説明としてもっとも適当なものを、次の1～4から選びなさい。 【解答番号4】

- 1、死が避けられない人の肉体的苦痛を炎天の砂浜に例えている。
- 2、死に直面した自分の荒れ果てた心を赤道直下の濃紺の海に例えている。
- 3、生と死との葛藤をタイとビルマの国境の美しい空に例えている。
- 4、ガンの苦しみを炎天の砂浜でのたうち廻る老いたヒトデに例えている。

問六、傍線部（E）「乾いた客観化」と同じ意味になる語句としてもっとも適当なものを、次の1～4から選びなさい。 【解答番号5】

- 1、自分との対話
- 2、高度な言葉の象徴的表現形式
- 3、冷静な三人称の目になり切る
- 4、心の目を開かせる

問七、傍線部（F）「何らかの物語化の操作を加える」とはどのようなことか。その説明としてもっとも適当なものを、次の1～4から選びなさい。 【解答番号6】

- 1、ガン闘病者の死に対する怖れや懸念を、劇的な表現により他者に理解させようとする
- 2、病による苦痛や苦悩にさいなまれ混沌とする内面を、物語に託すことで痛みをコントロールすること。

（柳田邦男「言葉の力、生きる力」新潮文庫より 一部改）

問一、傍線部（あ）（か）のカタカナを漢字に直しなさい。 【記述式解答】

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| (あ) トウライ | (い) ケイカ | (う) シュウロク |
| (え) チョウエツ | (お) ミヤクラク | (か) アンノン |

問二、傍線部（A）「日記の『書き魔』」と高見順が言われていたことを、筆者はどのように理解しているか。もっとも適当なものを、次の1～4から選びなさい。 【解答番号1】

- 1、闘病記を書くことで「がん死時代」の始まりを世間に警告しようとしていた。
- 2、日記は単に闘病の事実を記したのではなく文学的に評価されることを目指していた。
- 3、日記を書くことで魂を燃え立たせ、精神活動を揺れ動かすエネルギーを放散させていた。
- 4、苦痛を冷静に記述することで死生観や宗教観を他のがん闘病者と共有しようとしていた。

- 3、苦痛や死への恐れなどで混沌とした自分の内面を、言語化によって筋道だったものにすること。
- 4、死に直面した限界状況の中での言語化の作業というのは、難解な哲学的な言い回しを生み出すこととする。

問八、傍線部(G)「円環の運動」とあるが、その説明としてもっとも適当なものを、次の1〜4から選びなさい。 【解答番号7】

- 1、死を前にした自分の内面を詩によってより高度に「対象化」し、それをあらためて自分の内面に取り込むことで、生死を迎え入れる自分を取り戻すということ。
- 2、死に向かう中で言語化の作業は、自分のいのちや死の意味についての言葉を見出したし、それは他のガン闘病者にも生死を受け容れる姿勢をもたらすということ。
- 3、詩作によって燃焼する魂を言葉に結晶化させて、混沌とした自己の内面にミヤクラクをつけることで、再び闘病の恐怖に立ち向かおうとすること。
- 4、メタファーを用いて自己の内面を作品世界の中に「対象化」して、死が不可避の事実であることを文学の領域にまで昇華させようとする。

二、次の文章を読んで、空欄(a)〜(d)に入ることはとっとも適当なものを、1〜4からそれぞれ選びなさい。

国語の長文問題は、
著作権の関係により公開できません。

(田中修『ふしぎの植物学』中公新書 より)

- | | | | | |
|-----------|--------|--------|--------|----------|
| (a) 1、つまり | 2、やはり | 3、それゆえ | 4、しかし | 【解答番号8】 |
| (b) 1、だから | 2、あるいは | 3、ところが | 4、たとえば | 【解答番号9】 |
| (c) 1、しかし | 2、すなわち | 3、他方 | 4、おまけに | 【解答番号10】 |
| (d) 1、さらに | 2、とりわけ | 3、だから | 4、ただし | 【解答番号11】 |

三、ア〜オについて、正しい読みをひらがなで書きなさい。

- ア、督促 イ、閑散 ウ、示唆 エ、進捗 オ、未曾有

【記述式解答】

四、12〜15の《 》の意味を表す語句、あるいは説明に合う語句としてもっとも適切なものはどれか。それぞれ1〜4から選びなさい。 【解答番号12〜15】

- 12 《熱心に聞く》
- 1、耳に入れる
 - 2、耳を傾ける
 - 3、耳にはさむ
 - 4、耳をそろえる
- 13 《安心して気楽に付き合える》
- 1、気が気でない
 - 2、気がすまない
 - 3、気が知れない
 - 4、気が置けない

14 《外観より実質を重視することのたとえ》

- 1、花よりだんご
- 2、論より証拠
- 3、氏より育ち
- 4、遠くの親類より近くの他人

15 《勢いや力がおとろえて弱まること》

- 1、衰退
- 2、減少
- 3、軽減
- 4、退化

五、16〜19の《 》の四字熟語について、意味の上でも用法の上でも、最も適切に使われているものはどれか。それぞれ1〜4から選びなさい。 【解答番号16〜19】

16 《順風満帆》

- 1、今朝はすっきりと目が覚め、仕事もはかどり、夜は久しぶりに友人と食事をし、まさに順風満帆の一日だった。
- 2、その作家は、発表する作品が次々とヒットして、順風満帆な作家生活を送っていた。
- 3、だれもが、精神的にも経済的にも何の心配もなく順風満帆する暮らしができれば幸せだ。
- 4、ドラマの主人公は、身辺にとんでもないことが次々に起こるといふ順風満帆な生活を送ることが多い。

《千差万別》

- 1、悩みに悩みぬいて千差万別して考え出した結論は、あっけないほど単純なものであった。
- 2、新しくできた飲食店は、メニューが多く味の良さにも評判があり、客が途切れることなく差万別だ。
- 3、紅葉の季節を迎えた秋の山は、一日のうちにも刻々とその様子や色合いが変化し千差万別する。
- 4、人それぞれ、育ってきた環境も生まれ持った性格も違うから、考え方は千差万別だ。

《温故知新》

- 1、数年前に起きた不可解な事件は、刑事が温故知新したおかげで見事、解決された。
- 2、温故知新というとおり、古い論文をよく読み直したことで、新しい研究テーマを見つけることができた。
- 3、ぼかぼかした陽気の中、新芽の匂いもして、温故知新の季節がやってきたことに気づかされる。
- 4、母の田舎では、周りの人々の温故知新に触れ、思いやりや氣遣いの大切さを改めて感じた。

《神出鬼没》

- 1、どんなにひどいいたずらにしても、祖母は神出鬼没な人柄で一度も怒りはしなかった。
- 2、この映画の主人公は、昨日アメリカにいたかと思えば今日はイギリスにいるという神出鬼没のスパイだ。
- 3、日本の昔話では、桃太郎や一寸法師といったように神出鬼没が描かれた話が多い。
- 4、近所の墓地は、神出鬼没のスポットとして有名で、夏はよく肝試しが行われている。